１２．地域連携型学際的研究の推進

１２－１．学外でのシンポジウム等への参加（情報収集と情報発信）

女性研究者キャリア・デザインラボ室員や多様な人材活用推進委員会委員が、以下のシンポジウムやセミナーに参加して、情報収集や意見交換を行った。

平成 19 年度

- 平成 19 年 9 月 10 日　7 大学男女共同参画等部門情報交換会（学士会館 301 号室）
- 平成 19 年 9 月 29 日　4 女子大学合同シンポジウム「女性研究者から発信！ワーク・ライフ・バランス社会へ」（日本女子大学　目白キャンパス）
- 平成 19 年 10 月 5 日　第 5 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム（名古屋大学野依記念学術交流館）
- 平成 19 年 10 月 6 日『研究者育成のための男女平等プラン』第 3 回シンポジウム『頑張れ若手研究者！！～早稲田モデルの構築をめざして』（早稲田大学 国際会議場）
- 平成 19 年 10 月 16 日 ダイバーシティ・サポート・オフィス（ＤＳＯ）発足記念ワークショップ（産業技術総合研究所つくばセンター）
- 平成 19 年 11 月 14 日 セミナー・説明会　「女性を活かす」組織のつくり方（ドーンセンター）
- 平成 19 年 11 月 17 日 第 6 回東北大学男女共同参画シンポジウム（仙台国際センター）
- 平成 19 年 11 月 26 日 産業技術総合研究所男女共同参画ワークショップ　ワークライフバランスを考える- イノベーション創出への実践（大阪梅田スカイビル）
- 平成 19 年 12 月 12 日　第 30 回日本分子生物学会年会･第 80 回日本生化学学会大会 合同大会（パシフィコ横浜 第 4 会場）
- 平成 19 年 12 月 19 日　九州大学女性研究者支援室（SOFRe）主催第 3 回セミナー（福岡国際ホール）
- 平成 19 年 12 月 21 日　第 7 回大学改革シンポジウム（学術総合センター　一橋記念講堂）
- 平成 20 年 1 月 12 日　日本学術会議主催公開講演会「人口とジェンダー―少子化対策は可能か―」（日本学術会議講堂）
- 平成 20 年 2 月 13 日　“女性研究者支援モデル育成”事業等合同シンポジウム～女性研究者等の活躍促進のために～　（お茶の水女子大学講堂(徽音堂)）本学より口頭発表及びポスター発表。
- 平成 20 年 3 月 6 日　第 3 回 COSMOS 交流会　女性支援の輪をつなごう！大学等における女性支援の現状と展望～子連れ出張から研究支援まで～（お茶の水女子大学）

平成 20 年度

- 平成 20 年 5 月 21 日　産業技術総合研究所　男女共同参画シンポジウム「多様な人材が活躍する組織を考える―ダイバーシティーマネージメントのすすめ」（ドーンセンター

（大阪府立女性総合センター）

- 平成 20 年 9 月 26 日　「男女共同参画社会の実現に向けて―女性研究者支援を通じた基幹大学の役割―」（7 大学 男女共同参画・女性研究者支援部門 合同イベント）（学士会館）本学より総長がパネルディスカッションに参加し「七大学総長による男女共同参画に係る共同宣言」、本学教員が報告。
- 平成 20 年 10 月 7 日　第 6 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム（京都大学百周年時計台記念館）本学よりポスター発表。
- 平成 20 年 12 月 1 日・2 日　「女性研究者支援モデル育成」事業等　合同シンポジウム（東京大学本郷キャンパス）本学より口頭発表及びポスター発表。
- 平成 20 年 12 月 8 日　第 1 回金沢大学女性研究者支援シンポジウム「大学のやる気と地域連携」（ホテル日航金沢）
- 平成 20 年 12 月 10 日　第 31 回日本分子生物学会年会・第 81 回日本生化学会大会 合同大会（神戸ポートピアホテル本館）本学よりポスター発表。
- 平成 21 年 2 月 16 日　名古屋工業大学教育改革・改善プロジェクト「本学における女性支援体制を構築するための環境整備事業」講演会（名古屋工業大学）本学教員が講演。
- 平成 21 年 3 月 30 日　日本物理学会第 64 回年次大会シンポジウム「研究・教員の場における男女共同参画」（立教大学）本学教員が講演。

<u>平成 21 年度</u>

- 平成 21 年 10 月 7 日　第 7 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム（東京工業大学蔵前会館）本学よりポスター発表。
- 平成 21 年 10 月 30 日　日本女性会議 2009 さかい「男女共同参画社会実現への現状と課題」（リーガロイヤルホテル堺）本学教員が講演。
- 平成 21 年 10 月 30 日　名古屋大学シンポジウム「女性研究者のキャリア深化のためのシステム改革」（名古屋大学　野依記念学術交流館）
- 平成 21 年 11 月 25・26 日　「女性研究者支援モデル育成」事業等合同シンポジウム（日本大学）本学より口頭発表及びポスター発表。

<u>平成 22 年度</u>

- 平成 22 年 6 月 24 日・25 日　大学・研究機関のための男女共同参画推進研修（国立女性教育会館）
- 平成 22 年 9 月 13 日　科学技術振興調整費「女性研究者養成システム改革加速」『杜の都ジャンプアップ事業 for 2013』シンポジウム 2010 ― 今何が必要か 各大学の取り組みに学ぶ ―（仙台国際センター）
- 平成 22 年 10 月 5 日・6 日　女性研究者支援システム改革プログラム事業合同シンポジウム「未来を築く女性研究者の飛翔に向けて」（京都大学）本学より口頭発表及びポスター発表。
- 平成 22 年 10 月 7 日　第 8 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム（理化学研究所　和

光研究所）

- 平成 22 年 12 月 1 日　第 2 回中国四国男女共同参画シンポジウム「持続可能社会に向けての男女共同参画～女性研究者支援モデル事業から見えてきたもの」（松江東急イン）本学教員が講演。
- 平成 22 年 12 月 13 日　奈良先端科学技術大学院大学男女共同参画シンポジウム「ワークライフバランスとキャリアアップ・新しい時代の働き方」（奈良先端科学技術大学院大学）
- 平成 23 年 3 月 20 日　「女子中高生のための関西科学塾 2011」（神戸大学）

平成 23 年度

- 平成 23 年 6 月 9 日　第 11 回日本蛋白質科学会年会男女共同参画ワークショップ（ホテル阪急エキスポパーク）本学教員が講演。
- 平成 23 年 7 月 14 日　第 1 回おおさか男女共同参画促進プラットフォーム（大阪府庁）本学教員が大阪大学の取組を報告。他機関との情報交換。
- 平成 23 年 10 月 21 日　第 2 回おおさか男女共同参画促進プラットフォーム（ドーンセンター）大阪大学、大阪府など他機関とのメーリングリスト構築、情報交換。
- 平成 23 年 10 月 31 日　第 9 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム（筑波大学　大学会館）本学よりポスター発表。
- 平成 23 年 11 月 1 日・2 日　女性研究者研究活動支援事業合同公開シンポジウム「女性研究者支援に向けた持続可能な取組の実現」（筑波大学東京キャンパス文京校舎）本学より口頭発表及びポスター発表。
- 平成 24 年 2 月　岐阜大学外部評価委委員
- 平成 24 年 3 月 9 日　「大阪大学大学院工学研究科/工学部における男女共同参画への取り組み」（北海道大学）本学教員が講演

１２－２．他機関の来訪による情報交換

本プロジェクト開始後、同じプロジュエクトに採択された機関同士の交流が盛んに行われ、お互い抱える問題点などについて情報交換を行った。また男女共同参画問題についての学士会の積極的な活動参加もあった。

・（社）学士会　架谷房子氏（平成 19 年 6 月 12 日）
　対応：多様な人材活用推進委員会委員の沖田委員長、堂目委員、堀井委員、田島委員
　内容：学士会が主催するシンポジウムなどについての意見交換
・（国）九州大学　犬塚 典子氏・乙須 翼氏（平成 19 年 12 月 11 日）
　対応：女性研究者キャリア・デザインラボの渡辺特任准教授、岡野事務補佐員
　内容：学内保育園や研究支援員制度についての具体的な運用状況についての情報交換。
・（独）産業総合技術研究所　男女共同参画室室長・澤田美智子氏と総括主幹・川崎一則氏
　（平成 20 年 3 月 7 日）
　対応：キャリア・デザインラボの沖田室長と田島副室長
　内容：産業総合技術研究所における男女共同参画推進に関する情報交換。
・（国）千葉大学　遠藤雅子氏　（平成 20 年 4 月 23 日）
　対応：渡辺めぐみ女性研究者キャリア・デザインラボ特任准教授。
　内容：研究支援員を派遣する制度についての情報交換を行った。
・（独）産業総合技術研究所　男女共同参画室室長・澤田美智子氏と総括主幹・川崎一則氏
　（平成 21 年 3 月 18 日）
　対応：田島節子女性研究者キャリア・デザインラボ室長、渡辺めぐみ同特任准教授。
　内容：今後の男女共同参画推進に関する問題点についての情報交換。平成 21 年度から始まる女性研究者支援加速プログラムについての意見交換。

平成 22 年度以降は、プロジェクト採択機関だけでなく、民間との交流も活発に行った。

・（社）日本リサーチ総合研究所主任研究員　小林貴博氏、桜井昭氏
　（平成 23 年 2 月 25 日）［首都大学東京からの委託］
　対応：頼本維樹男女共同参画推進オフィス室長、則末尚志企画推進課特任研究員
　内容：男女共同参画推進及びダイバーシティ（多様性）推進に関するヒアリング
・（株）テンプスタッフ　奥谷良樹氏、関さと子氏（平成 23 年 6 月 29 日）
　対応：頼本維樹男女共同参画推進オフィス室長
　内容：　大阪府「バイオ人材マッチング推進委託事業」についての情報交換
・（国）岐阜大学総務部長　坪内孝治氏（平成 23 年 7 月 7 日）
　対応：頼本維樹男女共同参画推進オフィス室長
　内容：　岐阜大学における「女性研究者支援モデル育成事業」についての情報交換
・（国）東京大学　三浦有紀子氏（平成 23 年 7 月 21 日）
　対応：頼本維樹男女共同参画推進オフィス室長
　内容：「女子中高生のための関西科学塾 2012」取組内容についての情報交換
・　関西学院大学　清水英子氏（平成 23 年 9 月 6 日）

対応：頼本維樹男女共同参画推進オフィス室長
内容：研究支援員制度の内容、運用の実際、効果等についての情報交換

・ （国）大阪教育大学　谷口一美氏（平成 23 年 9 月 15 日）
対応：頼本維樹男女共同参画推進オフィス室長
内容：両大学における男女共同参画の取組について情報交換

・ （財）21 世紀職業財団兼田亜貴氏（平成 23 年 9 月 26 日）
対応：頼本維樹男女共同参画推進オフィス室長
内容：女性の活用推進状況に関するヒアリング

１２－３．社学連携活動

以下のような活動を通じて、学外の諸機関との連携を図った。

① 女子中高生理系進路選択支援事業への協力

平成 19 年度文部科学省「女子中高生の理系進路選択支援事業」
“女子高生ジュニア科学塾 2008in 関西”
主催：特定非営利活動法人「科学と市民社会のコミュニケーション」、文部科学省
共催：大阪大学大学院工学研究科、同理学研究科、同基礎工学研究科など
開催日：平成 20 年 3 月 15 日（土）～16 日（日）
場所：大阪大学吹田キャンパス及びＪＩＣＡ大阪国際センター

この企画は、理系に進学することをためらいがちな女子高校生に対して、女性研究者や女子学生がロールモデルを示すと同時に、実験・実習などを通じて理工系学問のおもしろさを知らせ、理系進学を考えてもらうことを目的としている。

この事業の広報を多様な人材活用推進委員会および女性研究者キャリア・デザインラボが支援した。また、実施にあたっては、本学の理学部・基礎工学部・工学部・医学部・蛋白研などの教員や学生が 20 名以上、実行委員や実験担当、アシスタントとして参加した。

この活動は、場所を変えて毎年実施されており、平成 18 年度は神戸大学で、平成 20 年度は奈良女子大学で、平成 21 年度は京都大学、平成 22 年度は神戸大学を中心として、実施された。いずれの年にも、大阪大学の理工系教員が大勢参加している。

そのような実績を考慮し、平成 22 年度以降は、「大阪大学 21 世紀懐徳堂」を通して、大学として本科学塾への支援を継続的に行うことが、広報・社学連携室会議で決定された。

また、平成 23 年度は大阪大学が主催として「女子中高生のための関西科学塾 2012」を実施しているが、詳細については第Ⅲ章にて記述する。

② 広報・社学連携室の「大阪大学 21 世紀懐徳堂」の共催を得て実施したセミナーなど

平成 20 年度より創設された大阪大学広報・社学連携室（現在は広報・社学連携オフィス）の協力を得て、以下のようなセミナーやシンポジウム等のイベントを開催した。

- 第 2 回大阪大学男女共同参画セミナー「企業で活躍する女性研究者」
- 第 2 回大阪大学男女共同参画シンポジウム「ワーク・ライフ・バランスの実現をめざして」
- 女子中高生のための関西科学塾 2012

③ 広報・社学連携室の「大阪大学 21 世紀懐徳堂」主催のフォーラムへの協力

同じく広報・社学連携室が主催するフォーラムに、多様な人材活用推進委員会委員長をはじめとする関係者が参加した。

"Bon vivant"　～女性のためのキャリア・デザインフォーラム

主催：大阪大学 21 世紀懐徳堂

共催：大阪大学多様な人材活用推進委員会

日時：平成 21 年 3 月 14 日（土）

13：00～17：30

場所：大阪大学 21 世紀懐徳堂多目的スタジオ

（豊中キャンパス・イ号館 1 階）

1．大阪大学 21 世紀懐徳堂学主挨拶

武田佐知子 大阪大学副学長

2．映画上映

「ルッキング・フォー・フミコ：女たちの自分探し」

3．基調講演：栗原奈名子 映画監督

4．パネルディスカッション

栗原奈名子 映画監督

武田佐知子 大阪大学理事事・副学長

松繁寿和　大阪大学国際公共政策研究科・教授

加賀有津子　大阪大学工学研究科・准教授

5．交流

本シンポジウムは、女性が自分のキャリア・デザインへの考えを深めるという啓発的な目的をもって行われたもので、大阪大学 21 世紀懐徳堂が主催し、多様な人材活用推進委員会が共催して行われ、松繁寿和教授（多様な人材活用推進委員会委員長）がパネラーとして参加した。

まず、日本におけるウーマンリブの活動とそれに関わった女性たちのその後の人生を取り上げた映画が上演され、女性がキャリアを築こうとする場合に立ちふさがる壁について議論された。また、現在においても女性が活躍できる場が十分に与えられてないことや、家庭と仕事の両立という大きな課題が解決されていないこと等に関して、パネリストや参加者から活発な意見が出された。

この企画は、内容についてのみならず運営の改善点についても、その後も多くの意見や相談があり、強い関心が寄せられる企画となった。

④日本女性会議の「日本女性会議 2009 さかい」への協力

日本女性会議は昭和 50 年の「国際婦人年」と続く「国連婦人の 10 年」を記念して始まって以来、毎年、地方自治体の間でバトンタッチをするかたちで開催されてきている。

平成 21 年度は大阪府堺市での開催となった。この開催にあたり、女性研究者キャリア・デザインラボ特任准教授が、第 7 分科会「科学技術分野への女性の参画」のコーディネーターを務めた。また、科学技術分野で活躍している 3 人のパネリストのうち、1 名は、大阪大学大学院工学研究科の赤井恵助教が、ナノテクノロジーについて報告した。

開催日時は平成 21 年 10 月 31 日（土)、9：00～11：30、会場はホテル第一堺・フェニックスの間で、聴衆は約 150 名であった。

この事業にあたり、堺市の男女共同参画課と密接に連携し、分科会では、女性の科学技術分野進出の促進をアピールすることに成功した。

⑤日本学術会議主催の公開講演会やシンポジウムの後援

多様な人材活用推進委員会が、日本学術会議が主催する下記公開講演会の後援をした。

「人口とジェンダー　―― 少子化対策は可能か ――」

日時：平成 20 年 1 月 12 日（土）　13:00 ~ 17:00

場所：日本学術会議講堂

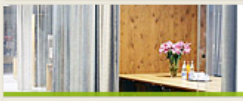
総合司会：久留島浩、　　コーディネーター：桜井万里子、上野千鶴子

また、平成 22 年 3 月 13 日（土）に開催予定の日本学術会議ジェンダー研究分科会シンポジウム「日本のジェンダー平等の達成と課題を総点検する---CEDAW 勧告 2009 を中心に」も多様な人材活用推進委員会が後援することになっている。

⑥内閣府男女共同参画局のウェブページにメッセージ掲載

内閣府男女共同参画局のウェブページ「チャレンジキャンペーン～女子高校生・女子学生の理工系分野への選択」へ、共催団体として次ページのようなメッセージを掲載し、平成 23 年度に更新した。

http://www.gender.go.jp/c-challenge/kyousai/kokuritsu/010.html



共催団体紹介・メッセージ 国立大学

新聞社・テレビ局関係
女性関連機関・団体等
学術機関・学会等
国立大学
公立大学
私立大学
高等専門学校
企業
研究機関等

内閣府チャレンジビデオ
内閣府チャレンジサイト 研究分野で活躍する女性

共催団体紹介・メッセージ TOP

国立大学法人大阪大学

大阪府吹田市山田丘1-1
http://www.osaka-u.ac.jp/

組織概要の紹介

＊教職員数・学生数 （平成23年5月1日 現在）
教員 3,102人　教員以外の職員 2,741人　合計 5,843人
学部学生　在学生：15,693人　大学院学生　在学生：8,009人　留学生　1,780人

＊本学は、懐徳堂、適塾の精神を受け継ぎ、昭和6年、医学部と理学部で、わが国6番目の帝国大学として創設されました。

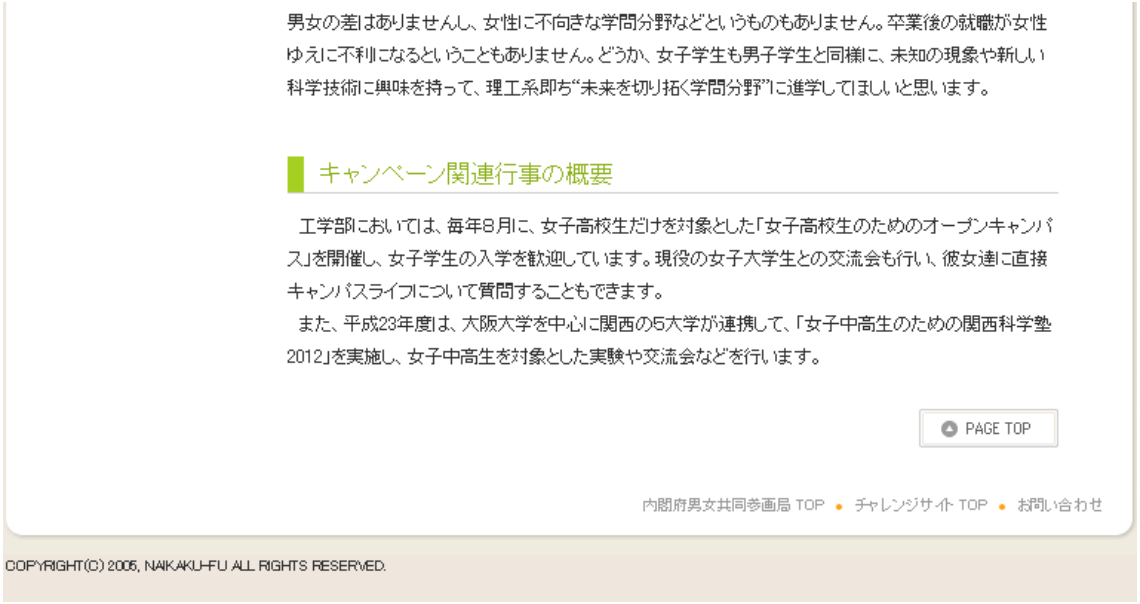
現在、11学部・10研究科があり（文、人間科、外（学部のみ）、法、経済、理、医、歯、薬、工、基礎工）、5大学院独立研究科（言語文化研究科、国際公共政策研究科、情報科学研究科、生命機能研究科、高等司法研究科）及び大阪大学・金沢大学・浜松医科大学連合小児発達学研究所があります。また、5附置研究所（微生物病研究所、産業科学研究所、蛋白質研究所、社会経済研究所、接合科学研究所）、2附属病院（医学部附属病院、歯学部附属病院）のほか、3全国共同利用施設（核物理研究センター、サイバーメディアセンター、レーザーエネルギー学研究センター）があります。

理工系分野・部門の紹介

大阪大学のルーツは、緒方洪庵の適塾に遡りますが、それは旧帝国大学の中で唯一“市民の手によって作られた”大学であること、また医学と理学・工学の学問の府として出発したという設立経緯と深く関わっています。初代総長は、原子模型で有名な物理学者長岡半太郎博士でした。このような創立以来の歴史の流れを汲んで、現在でも理系学部が非常に多い大学となっています。理学部、工学部、基礎工学部、医学部、歯学部、薬学部の6学部で教育を受けた学生達は、さらに8研究科を擁する大学院で最先端の研究に携わり、社会の様々な分野で活躍する人材として巣立っていきます。また、微生物病研究所、蛋白質研究所、産業科学研究所などの附置研究所や、核物理研究センター、レーザーエネルギー学研究センターなどの組織も、多くの大学院生を受け入れており、そこでは第一線の研究者と一緒に先進的研究に取り組むことによって、教育を受けることができます。権威主義に捕われない自由な発想を重視する学風は、特に科学の分野において威力を発揮し、数多くの優れた人材を輩出しています。

当校からのメッセージ

大阪大学には、もちろん文系学部もありますが、学内での最初の女性教授は、基礎工学部で誕生しております。しかしながら、他大学と同様、理工系、特に数学・物理・工学系の学科における女子学生の割合は少ないのが現状です。このことを私達は大変残念に思っています。科学の研究を行うにあたって、



⑦財団法人 21 世紀職業財団ポジティブ・アクション応援サイトへの協力

財団法人 21 世紀職業財団のウェブページ「ポジティブ・アクション応援サイト」に大阪大学の男女共同参画推進の取り組み状況が紹介された。

http://www.positiveaction.jp/pa/search/detail.php?company_id=576

企業詳細

企業概要　取組状況

プリントする

国立大学法人　大阪大学

所在地

〒565-0871
大阪府吹田市山田丘1-1

産業分類

大学

事業内容

世界水準の研究推進による総合研究拠点の確立、広い視野と豊かな教養を持ち確かな社会的判断のできる研究者・職業人の育成、地域および国際的な文化機関として多様な文化を発信・媒介

創業年

1931年

ホームページアドレス

http://www.osaka-u.ac.jp/ja

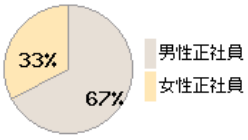
たけのこ保育園

シンポジウムの写真

従業員数

（単位：人）

	正社員	正社員以外
男性	3846	1365
女性	1879	2086



2011年2月末現在　正社員とは常勤教職員を意味しています。

正社員に占める女性の割合（正社員について）

32.82%

平均勤続年数男女差（正社員について）

5.6年

課長相当職に占める女性の割合（正社員について）

2.7%

女性のトップの役職（正社員について）

管理職では部局長1名、教育職では教授50名、事務職では課長相当2名、その他、看護部長9名など

企業概要 | 取組状況

取組むきっかけ

近年、大学における女子学生の比率が上昇し、今後もその傾向は強まると期待される一方、本学に占める女性研究者の割合の増加はあまり進んでいない。平成17年度に「男女共同参画に関する検討ワーキング」を立ち上げ、アンケート調査などの活動を経て、平成18年度には「多様な人材活用推進に関する基本理念」を制定し、その理念のもとに「多様な人材活用推進委員会」を設置した。アンケートの結果では、将来研究者の道を志す女子学生の比率は25．2%にのぼったが、女性研究者の比率は様々な要因でより低い水準で留まっていたため、「多様な人材の活用を推進する基本理念」に基づいて大学全体の意識向上を図るとともに、具体的で有効な施策の検討、導入に着手した。

取組体制

平成18年度に各部局の教職員で組織された「多様な人材活用推進委員会」を学内に設置した。当委員会が計画立案したプログラム「次世代に繋ぐ女性研究者サポート連鎖の形成」が、平成19年度に文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業として採択され、本プログラムに沿って「女性研究者キャリア・デザインラボ」を新設した。学内施設のユニバーサルデザイン化を進める「キャンパスデザイン室」や医学部附属病院とも連携して取組を推進した。
平成20年10月には、国立七総合大学総長による男女共同参画実現のための共同宣言が採択され、"公正な評価に基づく女性研究者の積極的登用"等を含めた施策に英知を絞り、その実施に向けて真摯に努力することを明言した。
平成22年1月には総長が委員長を務める「男女共同参画推進委員会」を設置した。さらに4月には「多様な人材活用推進本部」を設立し、女性だけでなく、障害者など多様な人材活用を一層推進し、研究・教育の質のさらなる向上を目指すこととした。また、キャリア・デザインラボの後継組織として「男女共同参画推進オフィス」を新設し、室長に専任の教授が就任して男女共同参画推進体制を強化した。

取組目標

社会的諸要因によって潜在能力の最大限の発揮を阻まれている、女性をはじめとする多様な人材を積極的に活用・開発することにより、本学の研究・教育の質の向上を目指す。とりわけ、男女共同参画の推進という観点から、女性研究者の増加、学内環境の整備、啓発活動、支援相談のシステムを構築し、女性研究者に有効で綿密な支援を実施して、大学全体の継続的キャンパスプランとして女性研究者育成に取り組む。

取組内容とその結果

1. 募集・採用の取組

理工系部局における常勤女性研究者の人数について、平成19年度からの3年間で3割増加させるという目標値を設定した。
部局長に対する女性研究者比率に関するアンケート調査およびヒアリングを実施した。

2. 登用の取組

女性研究者や女子学生からのキャリア・デザインに関する相談窓口を開設し、抱える問題やその解決方法などについての共有化を図った。
研究支援員制度を導入し、女性研究者の支援研究者として大学院修了者、研究補助員として学生を採用。ロールモデルと接することによりキャリア形成を促進し、次世代の研究者の育成に繋がる「サポート連鎖」を形成した。
女性研究者や女子学生のキャリア形成のためのセミナーを開催した。

3. 継続就業の取組

特別休暇、育児休業や短時間勤務等に関する啓発パンフレットを作成し、学内専用ホームページ上で公開している。
本部事務機構（事務局）においては毎週水曜日を定時退庁日に設定した。
出産・育児・介護などで研究時間が十分に確保できない女性研究者のために、学部学生や大学院修了者などを雇用して研究支援する研究支援員制度を導入。また、本制度に応募する大学院修了生のキャリアパスにもなっている。
医学部附属病院保健医療福祉ネットワーク部との連携のもと、大阪大学医学部附属病院の産科婦人科において本学女性教職員の妊婦健診を実施している。キャンパス内で健診を受けられることにより、ワーク・ライフ・バランスの実現を支援している。また、電動搾乳機の貸し出しも行っている。
平成20年4月1日から学内保育園（たけのこ保育園、まきば保育園）を運営。吹田キャンパスの真ん中に新築された「たけのこ保育園」は、国立大学法人が運営する保育施設としては最大規模の充実した設備を持ち、両保育園の近くに位置する医学部附属病院と歯学部附属病院の協力によって園児の病気や怪我に対する緊急医療も実施。また、看護師が常駐し、体調不調児保育も実施している。
育児・介護中の代替要員が手当てできる制度を実施。平成21年には、代替要員として常勤教員のみではなく、非常勤特任教員あるいは非常勤講師の雇用も可能となった。
平成22年には、裁量労働制適用教員が育児のための短時間勤務を請求できる制度を導入した。

4. 環境整備・風土改善の取組

休憩室の整備状況に関するアンケート調査を実施し、その結果、13部局に女性教職員が搾乳できる休憩室を整備した。
先輩・後輩の縦のつながりや分野を越えた横のつながりを持つことによって、相談や交流を深められるよう、女性の研究者、院生、大学生をつなぐ会員制のネットワーク「コミュニティ☆ラボ」を開設した。
女性科学者が集うワークショップや、子育て中の自然科学系女性研究者のランチタイム交流会なども定期的に開催した。
「大阪大学における男女共同参画の推進のために」の啓発冊子を作成、配布している。また、「常勤教員の実態と意識に関するアンケート調査」を実施し、問題点を抽出した。
従来から取組を行ってきたセクシュアル・ハラスメントに加え、アカデミック・ハラスメントやパワー・ハラスメントを含めたすべてのハラスメント問題を総括する大阪大学ハラスメント相談室を、平成22年度から設置した。室長1名、副室長(セクハラ担当とアカハラ担当)計2名、専門相談員8名、専門アドバイザー1名や全学相談員25名の体制を整備した。
学内の教員、地域の男女共同参画担当部署、企業の男女共同参画推進室、全国の大学・研究機関の女性研究者支援室との研究ネットワークを構築し、女性のキャリアに関する地域連携型学際的研究を推進して、大学からの研究成果(多様な人材活用に関するアンケート調査、常勤教員の実態と意識調査、大阪大学男女共同参画白書など)を発信した。
定期的に男女共同参画シンポジウム、セミナーを開催している。

取組の効果

「男女共同参画に関する検討ワーキング」が発足した平成17年5月には、7.7%であった本学の女性教員比率(助手を含む)は、平成22年5月には11.5%となった。女性研究者支援モデル育成事業「次世代に繋ぐ女性研究者サポート連鎖の形成」で設定した、「平成19年度より3年以内に理系女性研究者数3割増」の数値目標も達成した。
研究支援員制度を利用した女性研究者でRPDに採用される者、また支援研究者の中からも助教にキャリアアップした者など、次世代に繋ぐサポート連鎖も見られるようになった。(RPDとは…優れた若手研究者が出産・育児による研究中断後に円滑に研究現場に復帰できるよう、日本学術振興会が支援している特別研究員制度)
平成22年6月には一般事業主適合の次世代育成支援対策推進法に基づく「基準適合一般事業主」に認定され「くるみんマーク」を取得した。

今後の課題

科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業が平成22年3月に終了した。本事業の成果や、学内の男女共同参画体制を強化した組織作り及びシステム改革を踏まえ、これらを定着、発展させる必要がある。
また、同事業において当初設定した数値目標は達成したものの、平成12年国立大学協会提言及び科学技術基本計画における目標数値には及ばないので、女性研究者の採用・登用の加速を進める必要がある。

(C)2011 Ministry of Health, Labour and Welfare, All Right reserved.